



がんサロン開催のお知らせ

2015年5月20日(水) 16:30~18:30

がんになって分かったこと ~食事編~

参加費無料

第1部

『発症して考えた、がん患者の為の食事』



がん発症をきっかけに食事の大切さ、あり方を考え、治癒力アップのための食事作りを学ばれ、玄米菜食を続けられている。3年前より横浜から、空気・水・自然豊かな寄に移住される。ご夫妻の実体験をもとに、学んだ事、気が付いた事、試した事をお話しいただきます。

■セミナー講師 鈴木好春さん、みち子さんご夫妻

癌は生活習慣病というところから、手術・抗がん剤を断り、生活・心の乱れを改め、自然治癒力を高める生活を心がけた結果、癌になる前より健康で心豊かで幸せな毎日を送る。三年前より横浜より自然豊かな寄に移転し、経験を活かした身体にやさしい玄米菜食レストラン「ひなたぼっこ笑むの家」を営む。

第2部

『今、日本人に必要な食事療法とは？』



なぜ食事療法が今必要なのか？ドイツのマックス・ゲルソン博士が考案したゲルソン療法をはじめとした、日下部先生が提唱するがんの食事療法をお話頂きます。当日は食事療法の試食メニューなども実際に試して頂きます。

■講師 日下部 淑美(くさかべ よしみ)氏

- ・がんの食事療法提唱者 自然治癒力研究家
- ・「ファミリー・ホスピス鴨宮ハウス」の管理栄養士

開催日時：2015年5月20日 16時30分~18時30分(16時20分開場)

開催場所：ファミリー・ホスピスデイ鴨宮(ファミリー・ホスピス鴨宮ハウス3F)

住所：小田原市西酒匂2-5-10

定員：先着30名 参加費：無料

◆「おうちが病院」というコンセプトのシェアハウス型ホスピス「ファミリー・ホスピス鴨宮ハウス」国民の多くが、終末期においては自宅で療養したい、自宅で最期を迎えたいと思っています。(総務省：国民の意識調査より) その「自宅=おうち」とは、“モノ”としての家ではなく「自由」と「コミュニティ」の中で暮らす“コト”(物語)であると捉え、お互いが支え合いながら終末期を自分の意思で自由に暮らすことのできる「おうちが病院」というコンセプトのシェアハウスを企画しました。



申し込み
お問い合わせ先

ファミリー・ホスピス鴨宮ハウス

TEL: 0465-46-9966 FAX: 0465-46-9997

小田原市西酒匂2-5-10

e-mail:kamonomiya_h@family-hospice.com